

会員の皆様、明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルス感染対策に明け暮れた1年でした。3月に予定されていた札幌での研究大会を皮切りに大阪でのリハケア大会、熊本での研究大会と、3大会連続して中止せざるを得なくなりました。研修会も同様で診療報酬改定説明会は初めてのWeb開催となり、2020年度の研修会は一部を除いて軒並み中止に至りました。各病院の運営も、家屋調査や外出訓練など回復期リハビリテーション病棟が得意とする退院支援が実施できなくなったりした病院が多くなったと思います。一部の会員病院においては院内感染のクラスターが発生し大変なご苦労であったと拝察いたします。

2021年中にはワクチンが普及すると予想されますが、たとえ効果的なワクチンが実用化されても新型コロナウイルス自体が絶滅するわけではなく、私たちは今後もこのウイルスと共に存しなくてはなりません。

当協会の実態調査事業では、感染防御対策等で大変な中、多くの施設にご協力をいただき有効なデータを得ることができました。同調査において、約20%の病院が新型コロナウイルス感染後の患者を受け入れている実態もわかりました。

研修活動においても昨年11月よりWebでの研修会を開始し、次年度にはライブやオンデマンド等、

いろいろな方法で会員病院の皆様にご活用いただけるような研修会を実施いたします。

さらに、日頃の活動や研究の成果を発表・共有する場として3月にはWebでの研究発表会を開催いたします。全国各地で取り組まれている活動の内容を関係者全員で共有し、回復期リハビリテーション病棟全体のレベルアップにつなぐことができればと期待しております。

供給が不足していたマスクやガウンなど感染対

策物品も供給されるようになり、検査システムも整備されてきました。新型コロナだから「しない、できない」ではなく、しっかりと感染防御対策をとった上で、回復期リハビリテーション病棟の日常を取り戻しましょう。そのためには対応策を会員病院同士、発信・共有することが重要です。

ぜひとも皆様の

ご協力をお願いいたします。

回復期リハビリテーション病棟は創設から20年を越え、十分量のリハビリテーション提供とチームアプローチ推進により大きな成果を挙げています。今後は社会復帰などのより高い目標を掲げ、きめ細やかな退院支援と退院後のフォローアップをしっかりと行い、さらにそれらをフィードバックすることで、回復期リハビリテーション病棟の質の向上につなげていきましょう。



回復期リハビリ病棟の日常を取り戻しましょう



三橋 尚志

当協会 会長

(京都大原記念病院 副院長 医師)